

お知らせ

伊勢湾再生を願う3県のモニター1,000人が集結！
～平成24年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリングの結果（速報版）について～

1. 概要 : 伊勢湾再生推進会議（行政14機関にて構成、別紙-1参照）では、伊勢湾再生行動計画の一環として、「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」行っていますが、9月末時点での集計を速報版として取りまとめましたのでお知らせします。

- 調査期間 平成24年7月25日（水）～8月27日（月）
- 参加者及び調査地点（9月30日現在、[]は昨年度）
学校、個人、市民団体、民間企業など52機関[48機関]
伊勢湾の海域 32地点[30地点]
伊勢湾に流れ込む河川等 153地点[114地点]
- 調査内容 パックテストによる簡易水質調査（下記5項目）
COD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、
硝酸態窒素、りん酸態りん
- 結果
 1. 絶滅危惧種のアカザが三重県内で観察された。
 2. 有機物による水の汚れを示すCODが市街地の中小河川や支川の末端で観測値が高かった。
 3. 空き缶、袋、花火の燃えカスなどのゴミが各地で確認され、中にはゴミ拾いをしていただいた方もいた。

このように、水質、生物の生息状況を継続的に把握することで伊勢湾流域圏全体における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様から伊勢湾に関心を持っていただき、伊勢湾再生への意識を高めることが出来ました。

伊勢湾再生推進会議では、「人と森・川・海の連携により健全で活力のある伊勢湾を再生し、次世代に継承する」ことをスローガンとして、伊勢湾再生行動計画に基づき伊勢湾再生に取り組んでいきます。

2. 資料 : 平成24年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果（速報版）の概要

※一斉モニタリング結果（速報版）は、ホームページからダウンロードしていただけます。

http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_issei.htm



3. 配付先 : 中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先 : 伊勢湾再生推進会議事務局
国土交通省 中部地方整備局
港湾空港部 海洋環境・技術課
課長補佐 日置 幸司 TEL : 052-651-6470

企画部
建設専門官 堀江 幸生 TEL : 052-953-8127

伊勢湾再生推進会議の構成機関

国土交通省 中部地方整備局
海上保安庁 第四管区海上保安本部
内閣府 内閣官房 地域活性化統合事務局
農林水産省 東海農政局
林野庁 中部森林管理局
水産庁 漁港漁場整備部
経済産業省 中部経済産業局
環境省 中部地方環境事務所
岐阜県
愛知県
三重県
名古屋市
名古屋港管理組合
四日市港管理組合

平成 24 年度 伊勢湾流域圏一斉モニタリング結果(速報版)の概要

1. モニタリングの目的

水質、生物の生息状況を継続的に把握することで伊勢湾流域圏全体における水環境の状態を把握するとともに、多くの皆様から伊勢湾に関心を持っていただき、伊勢湾再生への意識を高めることを目的としています。

2. モニタリングの実施内容

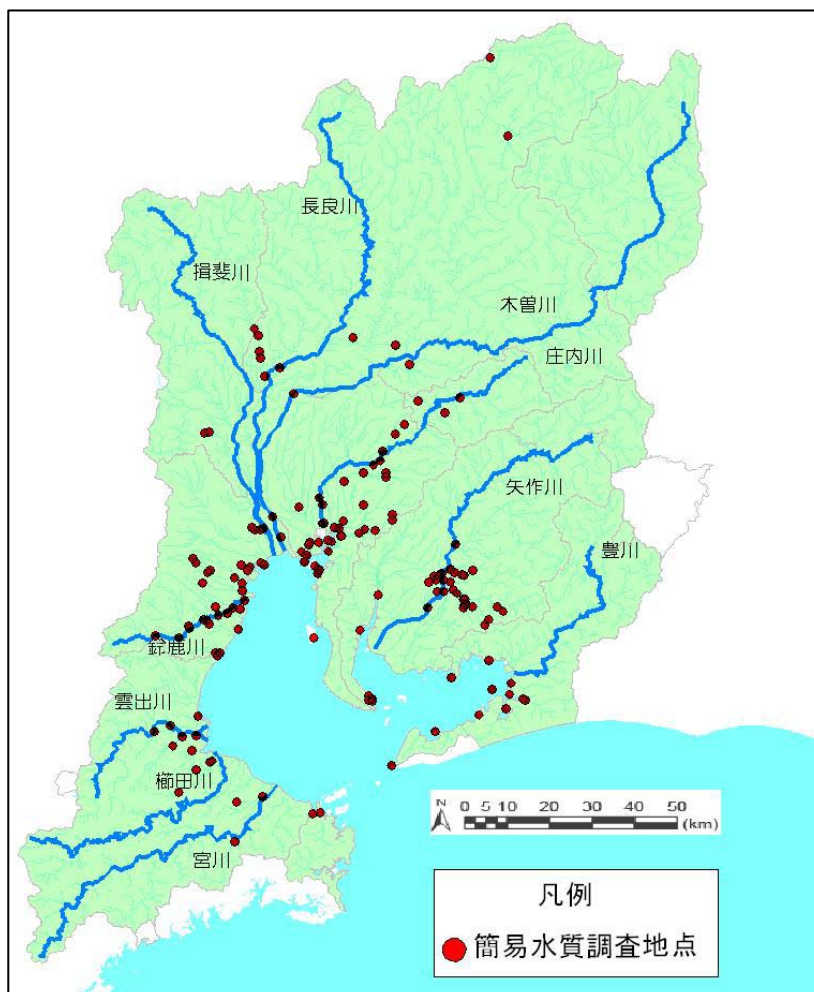
今回実施した一斉モニタリングでは、簡易に水質テストが行える調査キットを活用して、海の水質が悪くなりやすい夏の時期に、伊勢湾の海域（32 地点）や伊勢湾に流れ込む河川の集水域（153 地点）で、学校、個人・市民団体、民間企業など、52 機関の参加により水質等の一斉調査を実施しました。（調査地点数、機関数は 9 月 30 日現在の集計）

(1) モニタリング期間

平成 24 年 7 月 25 日（水）～8 月 27 日（月）

(2) モニタリング調査項目

今回は、主に市民の方々が参加した「簡易水質テスト」についてまとめました。自治体が発行する分析による水質調査も含めた「確定版」は、年明け頃に公表予定です。



平成24年度の一斉モニタリング(簡易水質テスト)調査地点

(3) 観測された結果の一例

一斉モニタリングで収集した簡易な調査キットによる水質調査の結果を用いて、CODとりん酸態りんの分布図を作成しました。

COD（化学的酸素要求量）

有機物による水の汚れを示します。有機物を酸化剤が化学的に酸化するときに消費する量を酸素量に換算したものです。汚れるにつれて値が大きくなります。



COD（簡易水質テスト結果）

市街地の中小河川や支川の末端で観測値が高くなっており、有機物による汚れが大きくなっています。これは、中小河川や支川は、大河川に比べて水の量が少ないところへ生活排水が流入しているためと考えられます。

PO₄³⁻-P（りん酸態りん）

リン酸態リンは植物の生育に必要な要素であり、生物の死骸により供給されますが、生活排水、肥料にも多く含まれ、富栄養化の原因となります。リン酸態リンが増加すると、植物プランクトンや藻類が異常発生し環境に悪影響を与えます。



PO₄³⁻-P（簡易水質テスト結果）

調査地点の多くで高い値が観測されており、生活排水の影響や田畑からの肥料の影響が考えられます。伊勢湾に流出すると富栄養化（プランクトンの異常発生）の原因の一つになるので、今後も確認していく必要があります。

3. 調査の風景



調査キットによる水質調査の状況



川での生物観察の状況

4. モニタリング詳細情報

一斉モニタリングの結果（速報版）の詳細は以下の URL より御覧になれます。

URL : http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/sai_ise/b_issei.htm